

第4回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会議事録

- 1 会議名 第4回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会
- 2 開催日時 平成27年4月21日(火)午後2時～午後4時
- 3 開催場所 小淵沢総合支所1階大会議室
- 4 出席者(敬称略)
出席者
茅野 光一郎、小林 健展、小林 千鶴子、草野 香壽恵、氏原 宏幸、小林 伸一、
卯月 盛夫
欠席者
坂本 興一、高田 一彦、清水 純子、鈴木正吉、久保 秀博
事務局
神宮司 浩建設部長、高橋 一成小淵沢総合支所長、坂本 孝典まちづくり推進課長、
景観まちづくり担当リーダー植松 宏夫、唐澤 史明、田中 勇
東京芸術大学
北川原 温、松田 和久、吉川 青、城代 晃成、星野 義晴、神谷 陽平、五条 萌
志甫 景
会議録署名委員
小林 伸一、茅野 光一郎
- 5 議題
 - ①開会
 - ②あいさつ
 - ③議題
 - ・小淵沢駅周辺地域活性化について確認と検討(第3回までの検討事業について)
 - ・プロジェクトチーム毎の検討と発表
 - ・その他
 - ④閉会
- 6 公開・非公開の別
公開
- 7 傍聴人の数
1人
- 8 審議内容
 - ① 議事
 - ・小淵沢駅周辺地域活性化について確認と検討(第3回までの検討事業について)に
ついて、資料に基づき説明を行う。

(会長) 今まで議論して頂いた内容を5つに整理しました。今の説明で、ここは違うとか訂正する箇所はありますか。よろしいでしょうか。

それで、本日は、できるところからやっていきたいという思いがありまして、この5つの事業の内最初の3つ「ウォークラリーの実施 拠点整備の実施 子供・次世代育成の実施」について、もう少しこの委員会で議論をしていきたいと思います。4番目のフィオーレ小淵沢の活用実施ですが、この地域では、面積も広く、重要な施設です。ここは指定管理者が行っており、ここだけで議論してもできることではないので、引き続き市役所と指定管理者・商工会で、ここで議論した内容を検討していただくということで市にお願いしようと思います。さらに、5番目の地域委員会から特色ある組織へ支援事業の実施についてですが、当然、地域委員会に参加されている方も何人か出席されています。この席で、地域委員会のことを議論するのではなくて、この委員会で議論している方向性のことを地域委員会の中で、別途 議論していただきたいと思います。4番目と5番目については、別途対応としたいと思います。

1、2、3について、この場で議論して頂きたいと思います。本日は、欠席の方が多くて、どのようにしようか考えています。本日は6人の出席なので、私の希望としては、2人ずつに分かれてもう少し議論して頂きたいと思います。議論をするに当たり、事務局で用意しましたシートを使って、本年度できる所からスタートするといった場合 シートにどういうメンバーを加えるかを検討して頂きたい。委員に皆さんには中心には、なって頂きたいと思いますが、こういう方とこういう方に加わって頂きたいという人を記入して頂きたい。また、目標についても各事業には書いてありますが、今年度の内容を記述していただき、それから詳細なスケジュール 予算については、基本的にはついていないので 工夫をすれば何とかなるといったお話もあるので、最小限でこのくらいはかかるということは確認しておきたいと思います。さらに、協力して頂く団体 この団体がいなければできないとか、あるかどうか分かりませんが、許可が必要になるのかを早めにチェックする必要があると思っています。このシートを見ながら、どんな事業が本年度できるか検討したいと思います。本年度事業がスタートできたら、次年度は、発展させられるか、こんな形で3つの事業をさらに検討したいと考えています。

それで、どのように分けるかですが、2人ずつでは少ないですか。

(委員) 本日出席者の中には、小淵沢地区ではない委員さんもいますので、分かれて議論もむずかしいのでは。

(会長) それでは、全員で、1事業10分くらいで、やりましょうか。

(委員) 3つを全員でやるのではなくて、1と2は観光的なものなので一緒に検討して、

3は教育的なことなので、ひとつでやるというのはどうでしょうか。そうすれば、3人ずつに分かれて、するのはどうでしょうか。

(会長) 折衷案ですね。それでは、2人ずつは厳しいので、3人ずつで検討することによってよろしいでしょうか。

(委員) はい。

(会長) それでは、どちらのグループに入るか。希望のある方いますか。

(委員) 3番の方で。

(委員) 1番2番の方で

(委員) 1番2番の方で

(委員) 3番の方で。

(委員) 1番2番の方で

(委員) 1番2番の方で

(委員) それでは、3人づつに、分かれませんが、1番2番の方を茅野さん、小林(健)さん、小林(千)さん、小林(伸)さん。3番の方に、草野さん、氏原さん、そして、私が入ります。それでは、議論した後、一緒にやります。それでは、移動してお願いします。

～2班に分かれて、議論を行う。～

(1番2番の発表)

ウォークラリーの実施と拠点整備の実施について、話し合いを行いました。その前段階として、委員会の方がこういうことをしようと決めて、市の方から参加者を募っても、人がなかなか集まらないのではないかと。それをだれがどこまでやるのか。だれが係わるのか。新しい組織を作るにしても、そこに労力がかかるのではないかと。ということがありました。まず、必要なものは何があるのか。と考えた時、若い人たちに参加してもらいたい。ということがありました。そのためには、どうすればいいのか。今回は、芸大で行う音楽祭がありますが、大きなくくりを提案して、そういうものを知ってもらい、そうするとこういうものをやりたいという人が来てくれる。参加者が集まった視点で、何がやりたいか、を話してもらって、その中からこうしたらどうかとか、上からでなく、やりたい人からの意見を聞いてやる方がいいのではないかといいことになりました。

そこから、ウォークラリーの話しでは無くなって、この北杜市の小淵沢町ではなくて、他の地域、富士見町 原村と県境を跨いで連携していくことが重要ではないか。観光面だけではなく、生活面も含め、自分たちに必要なものも含めた方がやる気につながるのではないかと。そして、それが試行につながるのではないかといい話がありました。そのひとつが交通インフラを組むということがありまし

た。市内を回っていたバスを、県を跨いで運行することにより、いままで知らなかったことを発見することにつながる。行き来することになれば、共通の話題ができ、若い人たちを引き込むことにつながる、ということがあげられました。

(委員) 補足します。少し脱線したところもありましたが、先日北杜市の広報が各家庭に配られました。その中に定住自立圏構想を北杜市でもやると書いてありました。そういう方向が出ているのであれば、このウォークラリーも市内を歩くのではなく、第1回を富士見町と一緒にやるような企画で行うことも考えられる。会長はできるものからやろうと強く言っていますが、試行でもいいですから、大きな構想でとらえてみてはどうか。今定住圏構想の話しがでましたが、この北杜市と富士見町 原村 県境を跨いでいて、人口がどんどん減少していく、それをもっと活性化しようということを国が考えています。例えば、バスも県境にくると戻ってしまいます。北杜市も富士見町も同じです。それを互いに少し延長して、県境を跨いで、行き来すれば、定住自立圏構想がどんどん膨らんで、実現していけば、大きなニュースになると思います。また、市の方も活性化してくると思います。それを私たちは狙って行きたいと思います。今日の話は、ウォークラリーの話から始まりましたが、せっかくなら、こういう大きい構想で、この地域を広げていきたい。それには、数年かかるかもしれませんが、まずは実施できる環境があるのならば、富士見町からも来てもらい、試行でもいいから、ある期間スタートする。ということを私たちは話しをしました。

(会長) その場合、やらなければならないことは、何がありますか。

(委員) 例えば、ウォークラリーでも、昨日見ましたが、この下に白州町に大武川地区があります。30人くらいの団体が歩いていました。今は、花の時期で涼しい、その中を富士見町から歩いていました。おそらく、富士見町から歩いてきて、県境の小淵沢町を少し歩いて、戻って行ったと思います。つまり、先ほど定住自立圏構想に基づいて、交通関係も相互に乗り入れることもあり、だと思えます。福祉の関係も入ってきていますので、生活圏も跨いでいます。今日の新聞に県で、市町村の担当者を集めて、人口減対策・定住自立圏構想についての説明会がありました。そして、9月にまとまったところは補助金が間に合います。もしできたら、この構想を間に合わせてもらいたい。

(委員) 今、白州町の大武川地区の話が出ました。飛び地ではないですが、国道を使って富士見町を通って行かなければなりません。ですから大武川地区の人たちの生活圏はもとより、学校も富士見町になります。今南アルプスエコパークの事業をどのように進めるかということがあります。できれば大武川地区をひとつの拠点にして小淵沢町と一緒に活性化を図ってもらえれば、大歓迎すると思います。南アルプスエコパークとしてもありがたいと思います。こういう広域事業になれば素晴らしいと思います。

う話しが出ました。

(会長) こちらのグループは、地下通路をターゲットにしていました、10月くらいに新しくなるようなイメージです。この地下通路が新しくなったことを展示して、皆さんに見てもらうことがひとつの考えです。もう一つの考えは、2・3年越しになるかもしれませんが、あの小淵沢商工会館を蘇らせることです。あそこをきれいにして、活用して、商店街、小淵沢地区の活性化にどう役に立つかそれで拠点にも係わってくるのですが、そういうことをやっていこうことです。冬はこちらの活動ができないので、秋頃から来年に向けて、こんなふうに活用できないか等を考え、ターゲットを変えて考えていく。次年度以降の芽だしをしていこうというものでした。

(委員) この事業は世代を越えて、集まれるものだと思います。子供たちが来れば、親も来ます。また、小中学生も準備の段階からできることには参加をして頂いて、それで自分たちがこの事業をしたと思えるようにしたい。できたものをするのでは無く、最初から自分たちで考えるような事業にできたらいいと思う。

(会長) 時間がだいぶ迫ってきているので、まとめたいと思います。ここにメンバーの欄があります。今日は委員さん2名でしたが、このプロジェクトを進めるに当たり、鈴木さん、久保さんにも参加してもらいたい。当然本人の了解は必要になりますが、一応書いてあります。それから、帝京第三高校の先生にも参加してもらいたい、と書いてあります。5月くらいにこのようなメンバーで話し合いをしながら、行政の補助金のタイミングを逸することなく、いきたいということです。で、同じように考えますと。こちらは、3人の委員さんに参加していただけたらと思います。本日欠席されている委員さんにもお話をさせていただきたいと思います。この2つのプロジェクトをどのような形で行うか。例えば並びで分科会というのか小委員会なのかわかりませんが、スタートさせると言う方向でいいでしょうか。もちろん詳細については、事務局も検討していきます。少しメンバーが替わったり、追加があるかもしれませんが、大きな方向は変わらないと思います。何らかの形で、成果を出して行きたいと思います。少し強引な形になってしまいましたが、よろしいでしょうか。

(事務局)

課題で上がっていたメンバーの募集ですが、できることなら皆さんからアドバイスを頂く中で、事業を進めて行きたいと思いますので、よろしくお願ひします。今、想定しているのが、「まちづくり小淵沢」さんとか小淵沢観光協会さんで、拠点については、「まちづくり小淵沢」さんに、ウォークラリーは小淵沢観光協会さん、小淵沢町体育協会さんにお力をお借りしながらできたらと考えています。

(会長) 調整事項が多いと思いますがよろしくお願ひします。5月・6月に、このような分科会みたいな感じで、開いていただければと思います。少し動き始めたところ

ろで協議会を開く感じでいいですか。その中で報告していただくような形を考えています。また、次の日程については、事務局と調整する中で決めていきます。

次に、今月の26日に予定しています芸大の音楽祭とその時に小林さんの方で計画しているドリームマーケット・懇親会について、情報提供という形でお願いいたします。

(芸大) 4月26日(日)に行う「生命力の踊り場 vol.2—杜の音楽祭」を東京芸術大学北川原研究室と芸大生で行います。その紹介をさせていただきます。今回はvol.2を行いますが、平成24年にvol.1を行いましたので、その説明から致します。前回は秋に行い、

小淵沢町の財産のひとつである美しいアカマツ林の魅力とそこに潜む深刻な問題を再認識させ、普段使われていない空間を地域の人々と積極的に活用していく事で少しずつまちの景観を変えていく事を目的に行いました。会場は、揉合神社西側のアカマツ林で開催しました。林の中に会場を設営し、音楽の学生に協力をしてもらい、そして、卒業生でケルト音楽をしている方にも演奏をしてもらった。地元の方々や東京から来てくれた方もいました。また、地元の企業の方にも協力を頂きました。

その後、音楽祭について、色々と案を考えました。次回は色々な作品を作って見ようとか、場所についても、アカマツ林ではなく、田も美しいので田でやろうとか、野焼きができないとか、彫刻をおいてみようとか、色々な検討をしました。

私たちは、この推進協議会に参加させて頂き、皆さんからどのような意見が出てきたか整理をしてみました。駅前とか商店街のことが出てきました。商店街の活性化、空き家の問題、住民が集える場所、もてなす場所 地域の自然活用とかの意見がありました。それを持って、学生で企画を練り直し、駅前商店街に視点を移して、駅前でポテンシャルをもった今回の場所にたどり着きました。

来週行うイベントについてご紹介します。4月26日 場所は、小淵沢商工会館 午後5時30分に受付 6時に開演いたします。開演の10分前に今まで行ってきた東京芸術大学北川原研究室の研究内容を発表します。イベントの内容については、小淵沢周辺の自然をモチーフとした芸術作品を通し、商店街内の利用可能な建物を見直すことで、新駅舎開業に向けた商店街内に、人のにぎわいと自然環境とが一体になった豊かな場所を生み出すきっかけを作り出します。若手アーティストによる小淵沢周辺の自然をテーマに作品を制作してもらいました。前回になかった試みとして、地域で活躍されているアーティストの方にも参加してもらいました。イベントをすることによって、住民に「イベントをすることができる」ということに気づいてもらい、それを活かして頂きたいと思っています。

早速、小林（千）さんがイベントを企画してくれました。私たちのイベントの前に、ドリームマーケットを行います。駅前商店街と一般の有志のコラボマーケットを行います。住民の方に気づいて頂き、行動を起こしてもらい、それを共有して 市民同士、市民と外部の方のつながりが生まれることを目指しています。それで、地元主催による地域活性化になると思うし、このイベントがその一歩になると思っています。そして、これが波及していけばいいなと思っています。以上で説明を終わります。

（会長） それでは、小林（千）さん資料の説明をお願いします。

（小林（千）） この会議に参加させて頂いて、学生さんたちの取り組みを聞いて、少し残念に思ったことは、PRが少なかったのではないかということです。そして、参加者が少なかったという話を聞きました。本当にもったいないと思いました。皆さんが小淵沢地区の活性化のために、色々なことを考えて頂き、素晴らしい芸術を披露してもらったのに、これを活かさなければならぬと思いました。今回のこのイベントの話聞いた時に、学生さんたちが発表して終わってしまうような気がして、私は勝手に立ち上がりました。この会議でも私のアイデアはお話しましたが、2月から毎週火曜日にボランティアの会を行い、これまでに会議の4を回やっています。これは、イベントが終わった後も続けて行こうと思っています。なぜなら、小淵沢商工会館がほこりだらけで、トイレも壊れていて、雨漏りもする、和室の天井は抜けている状態でした。それで、私たちはきれいにして、使えるようにしました。この会館は、皆さんの寄付で建てられ、愛着を持っているところです。地元の方はつぶしてほしくない建物です。このドリームマーケットは、200mくらいの間で行います。商店街に何度も足を運んで、協力を頂きました。そして、日曜日のこの時間だけ開けてもらうようにしました。22店舗が協力していただけるようになりました。その中で、一般の方たちが7店舗で遊休品や手作りの物を持ってきて販売をします。是非みなさんもこの200mのところをのぞきながら、来て頂きたいと思います。また、皆様にお願ひがあります。そのあと、活性化交流会を小淵沢商工会館の2階で7時50分から行います。定員は60名で募集していますが、すでに、43名の申し込みがあります。この協議会の人たちの申し込みがありません。今まで小淵沢商工会に関係のない方が加わってくれました。こういうこともわかってもらいたいです。私の一番の目標は、人的交流です。小淵沢商工会の方たちは高齢化と後継者不足でやめていっています。新しい人たちと交流を持つようにしなければ、本当の活性化にはならないと思います。そこに着目して、私のテニスの方々も2店舗だしてくれまして、女性連絡協議会も協力してくれて、バザーの品物も集まっています。この交流会の時

に、どういうテーマで話しをしたいか、アイデアを頂きたいと思います。1時間少しですが、話し合いをすれば、活性化につながると思います。これで、説明を終わります。

(会長) 43名の参加者は、どのような方ですか。

(小林(千)) 商店街の方はいません。一般の方が21名、女性連絡協議会の役員7名、学生さんが15名です。今日言ってくれないといっぱいになります。

(会長) それでは、予定していた内容は終了しました。事務局で何かありますか。

(事務局) 特にありません。それでは、長時間ありがとうございました。今年やることが明確になりました。事務局としてもがんばっていきたいと思います。また、4月26日は、生命力の踊り場 vol2 が開催されますので、皆様のご出席をよろしくお願いいたします。以上を持ちまして協議会を閉会いたします。ご苦勞様でした。